

# かせぐみ

## 豆まき

「もうすぐ「まめまき」」「鬼くるぞ」と楽しみにしている子どもや、ゆし巾着のイメージを写っている子どもがいます。「たいよう組の友だちが鬼さんになつてくるからね」と予告しての豆まきが始まりました。たいよう組の友だちと分かっていて、新聞紙で作った豆を笑顔で投げている子ども。たいよう組の友だちと分かっていても手作りの鬼のお面を鬼子と、やっぱり怖くて涙する子どももいます。お面を取ってもらって、「○○ちゃんや」と分かって、毎度「お面をかぶると怖さが戻ります。それでも鬼に向って、米膏一杯、豆を投げていました。給食では自分でのりまきにして食べました。

## つくる

### かぼん

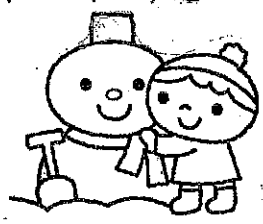
色画用紙と、クリアファイルの好きな方を選んで、そして自分の思い形には、土台を作り、絵を極めました。両端にハンケで穴を開けて、糸や紐を巻きつけ、肩紐も手さげ紐もつけます。素材を選ぶ時から「これにしようかな?」と考え「大きいにする」「長いかぼんにする」「どの色の糸にしようかな?」「肩紐はどれ?」「手さげ紐はどれ?」と自分で考え決めていきます。ハンケで穴を開ける時に、ものすごく力を入れて開けたら、糸を巻く時に、穴が飛んでしまったり、巻かすに通じなかったりしています。自分だけのかぼんができてうれしくて、さっそく持ち歩いていました。

## お弁当

園外保育で、お弁当を持って行ったこともあり、作るのと同じく楽しみにしていました。「お弁当の中には、何か入るぞ」と聞くと、「たまご焼き」「ウインナー」「おにぎり」「ミニハンバーグ」と、とんとん出てきます。紙粘土で、お弁当箱に入れたものを作ります。「たまご焼き」「ウインナー」は、のり巻く。「れんこん」は、穴あいてる。「焼そば」は、糸を巻く。「○○ちゃん」は、この色やねん「からあげ」は、この色に「よ」を巻く。細長くしたり、巻いたりして作り、絵の具で色もつけました。できたら味を女子は器器と試みます。アルミカップやバランを使えば入れるととてもおいしそうなお弁当になりました。

## 友だちとの関わりの中で

自分の好きなおもちゃやあそびがあると、  
①「それ、かいて?」②「いいよ」③「あ、何?」のやりとりを友だち同士でしています。今までは、言葉で伝えられず「すぐ」を取ったり、怒ったりする子どももいましたが、言葉で伝えるようになってきました。すぐに貸す時もあり、しばらく考えてから貸す時もあります。又、「これ使っていいよ」「これ貸したげる」とお互いに貸しあひっこして、あそびを広げています。保育者が仲立ちをしなくても子ども同士でやりとりする姿も増えてきました。友だち同士がわめていて「どうしたん?」「へんか?」「めんたいや」「先生、○○ちゃん〜したから、たんとちがうぞ」と仲裁に入ることもあります。今までは、自分中心であそぶ子どもたちの気持ちや、たんとんと友だちの方向に、友だちの思いにも気がつき、お互いに関わりあえるようになってきました。



# \*かせぐみ・たいよう組だより\* 2月号 2021.2.26

寒さの中にも、少しづつ春の暖かい日差しが感じられるようになってきた。この頃です。「たんぽぽさん おきてはいかほ?」と春がやってくることを楽しみにする姿があります。今年度もいよいよお正月が近づいてきました。来年度に向けて少しずつ準備をしつづけて、残りの日も思いきり、楽しんでいたいと思います。

# そらくみ

楽しみにしていた制作展、お家の方や他クラスのお友達にも見てもらえて嬉しそうなお友達もたくさん。「作る」ことの楽しさや力になり、自分の作品に愛着を持ち楽しんで作る姿がありました。新聞粘土では自分で新聞紙の状態から粘土状になるまでの工程を楽しみます。新聞紙を水に濡らした時の感触や、のりを入れた時の感触など一つ一つに新聞紙は発見がありました。最初はたまたまイメージが湧かず、作りたてのものをどうすれば作れるか葛藤する姿もありました。何を作りたいか整理し、1回目の新聞粘土で遊んだ経験もあつたことで「こまはかたもちでいい!」「こまはおうちやちまげでつくってあげたい!」「しっぽかきでいいわ!」とイメージに近づき嬉しそうです。自分の手で形を変えて遊ぶ、作ることを楽しむことができてきました。スクラッチでは色んな色のクレパスを使い、丁寧に塗っています。どこを塗ればいいのか迷っている子どももいるので塗る範囲を棒で描いて示すか、ぬり絵のように楽しんで塗る姿があります。画用紙がどんどん色でしき詰められていくと「こまはかたもち」と達成感に溢れています。上から黒色で一面塗り広げます。根拠強く集中して頑張っていました。次は自分の顔を塗り増しを使い描いています。自分たちが一生懸命塗った色が剥落して描いたところが見えて「うわ!」「めっちゃいいおみえだ!」と目を輝かせています。制作展当日は頑張りた作品、絵とお家の方に見てもらえる喜びと、他クラスの作品を見て回ることで「すごい!」「おべんとうかわい!」「たいようさんお正月つくる人かあ、こまをいって思っておもいに見ることも楽しんでいて子どもたちです。

## ① いっしょにさんぽ

かせ組たいよう組の友だちと一緒に散歩に出かけることも楽しんでいました。たいよう組の友だちとは鹿沼公園に行き、思いっきり身体を動かして鬼ごっこをいっしょに遊んで、道具と一緒に遊んでいました。歩く時はたいよう組の友だちと手を繋ぎ、走るときは走ります。かせ組の友だちとは北野天壽宮や北公園までに行きました。いつもたいよう組の友だちと一緒に走っているように、かせ組の友だちと手を繋ぎ車道側を歩き、走ります。「○○くんはハイハイだよ!」「まもってあげようよ!」「あ!どうだ!」「あ!どうだ!」と友だち同士で声をかけ合って歩く姿があります。憧れのたいよう組までもうすぐです。

## ② あいつのきもちになって

友だち同士の遊びの中で「自分の思いだけでなく、相手の気持ちや状況なども考えて、知っておくことで、共同で作り出す遊びが楽しめるようになります。状況に合わせて相談をしたり、互いに相手に合わせて言葉でやりとりをします。そして協力することによって、自分の思いを言葉で伝えたりすることで、イメージの共有においても遊びの豊かさに大きな役割を果たしています。遊びの中で、自分の思いが強くなり、思いがぶつかり合う時、ついつい言葉で伝えるよりも先に手が出てしまう姿があります。その時に保育者が間に入り思いを伝え合い、話し合えるよう見守っています。自分であればどうか、相手の立場において「これはいいや」「それはどうかな」「これはうれしいな」と考えられるよう話し合い、声をかけていきいと思いを。



# たいよう組 豆まきもしたよ!!

2/26 豆まきをしました。たいよう組の子どもたちが「おんぼろの鬼」役になることを聞き、楽しんでお正月のよい子どもたちです。どんな鬼にしようかと、意見を話し合います。すると、「そうだ! 米膏をこねておこ!」「こが上がり、米膏の鬼のお面の下書きをします。「め、おつにしよう!」「これ、め、ちこわいせん」と友だちの糸袋を見て、話が盛り上がり、糸袋が仕上がると、糸袋に装飾を始めます。ペットボトルの蓋、ストロー、画用紙、モールなどを使い、作ります。たんとんと鬼に迫るにつれて、顔の色を工夫したり、素材の貝占り付け方にもこだわって、知恵をふりかき交わります。

鬼のお面作りには他の友だちに見つからぬよう、午睡の時間に作っていました。「当日までは秘密だよ」と少しも保育室の前を横切る子どもが居るのが分かる。「おんぼろくわい!」「おつにやめ、てどかして!!」と全力で隠れようとします。そのような日が何日も続き、出来上がったお面の目の位置に穴を開け、かぶってみると、もう気分は鬼です。仕事せ声も練習し始めます。指折り数え、楽しんでいた豆まき当日の日...

たいよう組になることはもちろん楽しんでお正月の鬼が来ることも楽しんでおり、ドキドキが止まりません。園庭から帰ってくる時、想像で涙する子どももいれば、「まだ、おにがにいるんやぞ!」と探し始める姿もあります。鬼が忘れていったパンツの穴さきにもびっくり! おんぼろくわい! 入ってしまった。

それから、いよいよ、たいよう組の出番です。お面をかぶり、かせ組の保育室に向かいます。かせ組の子どもたちは、たいよう組の鬼が入ってくるなり、「きゃん」との叫び声やら涙する声が多響き渡ります。おんぼろくわい! 近づいてはいたおにのどき、おんぼろくわい! 怖がる姿に、一歩引く、たいよう組の子どもたちです。「鬼になつて、め、ちこわいせん!」「鬼にやめ、てどかして!!」と、お面を少しづつ、「○○で、おにやめ、てどかして!!」と、教えている姿もあり、優しさにして、こりするひとときでした。

「おに、たのしうな!」「おんぼろくわい! まいへんぞ! まかせせ」「おにせ、ていせいこー!!」と、せり終えたら後は達成感に溢れていました。昨年から小遣れを手にしている鬼役も「おんぼろくわい!」と、経馬出来、楽しい日となりました。

## 保育園のおんぼろくわい作り

卒園まで、いよいよ1ヶ月となりました。保育園のおんぼろくわい「いままで、ありがた」の思いを込めて、フジヤを作ろうという思いで、考えを出し合います。子どもたちには提案した時、すぐには思いがつかず、頭を悩ませる子どもたちです。しばらくしてから、「おまもこで、あそべる おちせおんぼろくわい」との意見が出て、口火を叩いて、次々に声が出始めます。「えほん」「かぼん」「つくえ」「いす」「ぼうし」等々、自分のせつにいいことを話し合います。当然、保育者は、おんぼろくわい「おんぼろくわい」のものを作り上げたいという思い、そして、それだけのせりたいてい思いを十分に満たすことが大切なのでは?と考え直しました。もちろん1人ごするのではなく、大ききおんぼろくわいの中にも共通のテーマで、何人が集まり、意見を交わし作り上げていくことを目標に、今から

進め始めています。1週間程前から絵本チームが集まり出し、みんなは話し合えるのか。話し合っています。3人で集まっていたことが5人、6人と増えてきています。人数が増えるにつれて意見の相違も増え、1人1人進めるのに1時間も要する程です。  
"自分はこうしたいと思ってるのに..." "こうしたらいいのに..." など思っているのに、ほかほか話し合っています。ある1人がどんどん話を進めていくこともあり、その時は保育者が入り、みんなに本当にそれでいいのか？と聞き、みんなが話し合っています。時に見守り、この繰り返しばあると思います。

自分の考えと相手の考えは同じではないこともあるというのを知り、どう受け止めていくか、否定から入るのではダメ、その子どもの思いに耳を傾けていくことを繰り返し重ねている毎日です。大きくなると、子どもだけの世界が中心となり、自分中心の考えで相手を悲しませたり傷付けてしまったり、傷付けてしまったりすることもよくあります。そのトラブルの時には相手としっかりと向き合い、思いや考えを伝え合うと、ちがった思いの相違いが原因であったりします。自分の思いを伝えることは難しいですし、勇気も要しますが、友だちともめごと、見えなくなる相手の気持ち、感じることもたくさんあるので、人間関係を形成していく上で大切にしています。

制作展を見て頂きありがとうございます!!  
おうちの方に見てもらえて、嬉しい嬉しい子どもたちです。

